

川崎病患者の末梢血単核球についての検討

(分担研究：川崎病の病因および発症機序に関する
免疫病理学的研究)

柳瀬 義男

要約 川崎病患者15例より得られた末梢血単核球を培養し、その培養細胞に表現される表面抗原について各種血清を用いて検討した。現在までのところ、川崎病に特異的と思われる抗原は検出されていない。

見出し語：川崎病，末梢血単核球

研究方法

1) 材料：7病日以内の川崎病患者15例および対照群として同年齢の他疾患患者15例のヘパリン血より、末梢血単核球(PBMC)を分離した。
2) 単核球の培養：得られたPBMCを10%牛胎児血清添加RPMI 1640培地中にて24時間培養し、このPBMCの塗沫標本を作製した。一部の検体はIL-2添加培地において、約1カ月培養した。この細胞についても同様に、塗沫標本を作製した。
3) 細胞表面抗原の検出法：一次抗体として、川崎病急性期および回復期血清、正常小児血清、抗EBV-VCA血清、抗EBNA血清、抗ATL血清、などを選んだ。二次抗体として、各種の螢

光標識抗ヒトIg血清を使用した。これらの抗体を作製した塗沫標本と反応させ、螢光顕微で観察した。

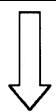
結果 各種の血清を濃度を調整して検討したが、明らかに抗体と反応したと思われた細胞は認められなかった。

考察 この研究は実験条件の設定が難しく、最終的な結論は得られていない。今後さらに方法を改善して、細胞内に存在すると思われるウイルス抗原の検索をすすめるべきと考える。

Abstract

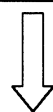
Yoshio YANASE

Peripheral blood mononuclear cells were isolated from 15 patients with Kawasaki disease and cultured in RPMI 1640. The cultured cells were examined for new cell surface antigens by reacting with various kinds of sera including sera during convalescence of Kawasaki disease. At Present, no specific antigen associated with Kawasaki disease has been detected.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 川崎病患者 15 例より得られた末梢血単核球を培養し,その培養細胞に表現される表面抗原について各種血清を用いて検討した。現在までのところ,川崎病に特異的と思われる抗原は検出されていない。